

(地域展開資料)

茅野市 明峰クラブの取り組み

<持続可能なクラブ運営を目指し地元企業と連携>

茅野市立長峰中学校野球部顧問 湯本 学
(野球協会南信地区代表)

1 はじめに

明峰クラブは2021年に茅野市立永明中学校(永明中野球クラブ)と茅野市立長峰中学校(長峰クラブ)が合併する形で発足して5年目を迎える。地元企業からの協賛については、明峰クラブの渡辺雄一監督から経緯や情報をいただいた。

2 協賛金を募った動機

これまで部活動地域展開を見越して指導体制や保護者を整えてきた。

指導者は、前身のクラブから10年以上ボランティアとして活動。後進の指導者を探すも、ボランティアによる指導者を見つけることは容易でない。せめて指導に伴う活動経費の一部は補助したい。また、クラブで借り上げる施設の補修などの経費は嵩む。持続可能なクラブ運営を図るため、保護者負担を増額することも検討しつつ「地元企業のお力をお借りできないか。」と考えた。

協賛企業とは、「応援する応援される関係」だけでなく、地域奉仕活動やキャリア教育での連携を視野に入れ提案させていただいた。

3 協賛企業

<茅野市>

野村ユニソン株式会社 株式会社山長 有限会社ツバサ 株式会社今井緑化総業
有限会社長峰スポーツ

<諏訪市>

信州諏訪農業協同組合 株式会社ミクロ発條 LCV株式会社 株式会社テンハウ・フーズ

<諏訪郡原村>

有限会社石井企画 株式会社かめや 株式会社イツミ

以上 諏訪地域の12社

4 各新聞報道の記事

○信濃毎日新聞

「まるでプロ？ 中学生の野球クラブにスポンサーが12社 ユニホームには企業のロゴがたくさん…打診した監督の熱い思い」

長野県茅野市の中学生軟式野球クラブ「明峰(めいほう)クラブ」は4月から、クラブを支援する地元のスポンサー企業のロゴ入りユニホーム姿でプレーしている。スポンサー収入はチームを手弁当で支えるコーチら指導者の資格更新費などに充て、持続可能な活動につなげる。プロ選手にも見えるいでは「格好いい」とクラブ員に好評で、やる気アップにもつながっている。

多くのスポンサー企業名が入ったユニホームを着る中学生 カキーン。

6月中旬の夜、茅野市運動公園内の野球場での信州諏訪農協(本所・諏訪市)との練習試合。三遊間

にヒットを打った明峰クラブの選手が一塁へ全力で走った。ユニホームには信州諏訪農協、製造業の野村ユニソン（茅野市）、飲食チェーン店「みんなのテンハウ」など諏訪地域の12社のロゴが入る。内野手で永明中学校（茅野市）3年小平悠斗さん（14）は「周囲から格好いいとウラやましがられる」とはにかむ。

明峰クラブは野球人口の減少が進む中で2021年、永明中、長峰中ごとに地域住民が教えていた二つの野球クラブが合併して発足。現在は原村原中の生徒も加わり、32人が在籍する。監督、コーチは計6人。中部地方や東日本の大会へ県代表として出場することを目指している。

監督が地元企業に打診。スポンサー募集は昨年、福井県内の中学生野球クラブで同様の取り組みがあることを監督の渡辺雄一さん（55）＝茅野市＝が知ったのがきっかけ。早速、地元企業に打診するとスポンサー料計30万円が集まった。指導者の交通費や天候不良時に練習で使う施設の維持費などに充てる。

大口の「胸スポンサー」の狙いは―

大口の「胸スポンサー」を務める信州諏訪農協の野明光幸・茅野地区統括所長（55）は「地域貢献し、子どもが不自由なく好きなことをする助けになればいい。地元産の農作物を食べるきっかけにもなればうれしい」とする。

部活動の地域移行を見据え、企業の支援を募る動きは県内で他にもあるが、県スポーツ振興課は、ユニホームに企業名を入れる取り組みは「珍しいのではないか」とする。

「野球に恩返し」―

渡辺さんは「野球に育てられたので、野球に恩返ししたい。次代につなげられるよう行政に頼るばかりでなく、応援してもらおう中で時代に適応した形で自立を模索したい」と話している。

持続可能な運営を

中学軟式野球「明峰クラブ」12社が協賛

企業ロゴ入りユニ着用



協賛企業のロゴが入ったユニホームを着て練習に励む明峰クラブの選手たち

茅野市を拠点とする中学軟式野球のクラブチーム「明峰クラブ」が、諏訪地域の企業12社の協賛を得て、ロゴや企業名を入れたユニホームを着て活動している。自立した持続可能なクラブ運営を目指して初めて協賛を依頼した。4月から選手たちが練習試合などで着用し、企業のPRの一翼を担っている。(宮沢知史)

同クラブは、メンバー不足でチーム編成が困難になり始めた茅野市の永明中と長峰中の社会体育クラブが合併し、2021年7月に発足した。現在は諏訪広域のチームとして、両校と原中(原村)の3校の13年生31人が在籍。

永明、長峰、原の3校31人が在籍

が在籍。長峰中学校庭を拠点に練習に励み、各種大会に出場している。

中学の部活動の地域移行が進む中、地域クラブとして持続可能な活動環境を整えるため、活動の一端を企業に支援してもらおうと発案。昨年10月から3校の地元企業を中心に依頼したところ、製造業、飲食店、不動産業など多彩な業種の12社が賛同した。4月1日から1年間の契約。集まった計30万円の協賛金は、クラブ指導者の経費の一部補助グラウンド

使用料、チームが管理する施設の維持などに活用する。ユニホームシャツには前面と背面、袖に協賛企業のロゴを配し、選手たちが公式戦以外の通常の練習や県内外で行う練習試合などで着用する。「指導者の確保が課題だったが、少しでも指導者に補助できれば」と渡辺雄一監督(55)。「地域企業の子どもたちへの期待を感じ、責任も感じる。地域から信頼されるクラブでありたい」と話した。今後は協賛企業と連携し、地域奉仕活動や企業を訪問したキャリア教育などにも展開したい考えた。

柿澤天斗主将(14)「永明中3年」は「地域の人たちに応援してもらい、自分たちの気持ちにも余裕ができた」と感謝し、「チームの目標である県大会出場を決めたい」と意気込んでいた。

地域の野球チーム支援



協賛企業のロゴなどを入れたユニホームを着用し、笑顔の「明峰クラブ」の3年生

【信州諏訪】JA信州諏訪は2025年度、諏訪郡の中学校軟式野球の地域クラブ「明峰クラブ」の活動を初めて支援する。選手や監督・コーチは、JAを含む地元企業12社のロゴなどを入れたユニホームを着用し、練習に励む。

JA信州諏訪など12社

主将で茅野市立永明中学校3年生の柿澤天斗さん(15)は「かっこいい軟式野球チーム数は半減、ユニホームでモチベーションも上がる。県大会に出場できるようみんな頑張る」と士気を高め母体となつて21年に設

畜産緊急対策でJAに情勢報告

【みなみ信州】JAみなみ信州畜産協議会の吉川正志協議会長(酪農部会長)はこのほど、飯田市のJA本部(酪農・肉牛・繁

信州会
み協議
み協

勝に係る緊急支援対策を実施した。また、JA役職員や関連機関向け乳製品の販売や、会議などでの牛乳の使用、地元企業向けに南信州牛の購買あつせんなど畜産物の消費拡大にも継続的に取り組んでいる。畜産を取り巻く情勢



白熱した決勝戦

田市営今宮野球場と森町民グラウンド、喬木村の喬木総合運動場が開いた。JA管内のチームが参加した。野球を愛する仲間、の助け合いの心を、子どもたちの健全育成と相互の交流、深め、JAの輪を、狙いで毎年開い

ロゴ入りユニホームにやる気

立。「八ヶ岳山麓で明るく野球に取り組む」との意味で、「明峰」と名付けられた。現在は両校と原村立原中学校の生徒も在籍。監督とコーチはボランティアが担い、全国的に広がる「部活動の地域展開」として運営している。今回は、将来にわたり持続可能なクラブとするため、地元企業に協力を募った。ユニホームは、4月1日から26年3月31日まで1年間、練習や練習試合で着用する。協賛金は、施設使用やチームの道具、クラブの運営に活用する。JAは「地元団体の一つとして、生徒が部活動を通じて健全な心身の育成が図れるように」と協力を申し出た。監督の渡辺雄一さん(55)は「県内では珍しい取り組みで、他チームからの関心も高い。予想以上に多くの企業に協力いただきありがたい。活動で恩返しをしたい。子どもたちをしっかり成長させ、信頼されるクラブにする」と感謝を伝えた。地元のJA茅野中央支所の野明光幸地区統括所長は「地域に根差したJAとして、活動を応援したい。すてきに仕上がったユニホームで頑張る」と願った。